

企画展「水害の記録と教訓」 を開催します

近代の河川改修以後、少なくとも岡山市の中心市街では水害の記憶が遠のきましたが、歴史上、低平な岡山平野で暮らす人々は、たびたび大規模な水害に見舞われてきました。そこで図書館が所蔵する江戸時代以降の岡山の水害記録をひもとき、それらが語る教訓を考えてみます。

1 日時

令和6年7月4日(木)～8月4日(日) 毎週月曜日は休館(ただし7月15日(祝日)は開館)
開館時間 10時～18時(木曜日は11時～19時)

2 場所

岡山市立中央図書館 2階視聴覚ホール前 展示コーナー(北区二日市町) 入場無料

3 内容

- ・岡山平野は水害に悩まされてきた地域です。記録に残るだけでも岡山藩主・池田光政の治世の承応大^{しょうおつ}水害以降、おおよそ数十年おきの頻度で甚大な被害をもたらす水害が起こってきました。
- ・江戸時代の水害の記録としては、破堤箇所と浸水地域を描き留めた絵図や、村の名主^{なぬし}たちが被災した人と家屋の数を書き上げて報告した文書などが残っており、あわせて近代に起こった明治25年と昭和9年の水害の記録や写真なども紹介して、合計で約20点の資料を展示します。
- ・当時の人々は、その時代なりのしかたで水害に対処してきました。危機管理のあり方や、被害の把握方法、治水への努力など、残された記録を通して歴史から学べば、現代にも通じるような、古くて新しい課題が浮かび上がってくることでしょう。

4 関連講座

令和6年7月14日(日) 14～16時 「岡山藩領の水害記録について」
会場:岡山市立中央図書館 2階視聴覚ホール 先着60名(申込不要) 聴講無料
講師:飯島章仁(当館学芸副専門監)

【問い合わせ先】

岡山市立中央図書館 飯島・沖田 直通086-223-3373

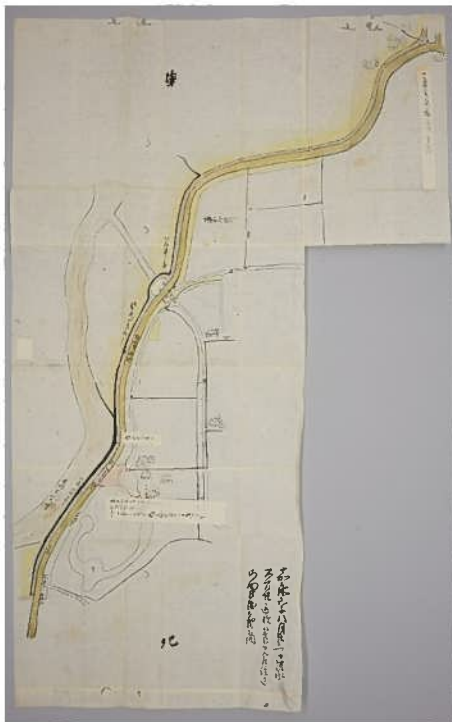
おもな展示品（本展の展示品は、すべて岡山市立中央図書館の所蔵品です）

（右）「津高郡辛川市場村一宮村今岡村中川前堤上置一件論所^{ろんじょ}絵図 文化十五年亥三月」（令和5年度の新収蔵品）

現在の北区一宮で笹ヶ瀬川へ注ぐ中川の水害から、関係する3つの村で堤防の嵩上げ(上置)をめぐる争論が生じ、裁許のために作成された絵図です。浸水した広い地域が、その形に切られた青色の紙を重ねることで示されます。(文化15年=1818年)



（下）「嘉永五子^ご八月廿二日洪水 百間堤破損御座候見取絵図」上道郡海面村(現在の中区海吉)の百間川の破堤箇所を图示し、被害状況の報告としたものです。(嘉永5年=1852年)



（右下）昭和9年の室戸台風水害の状況

下之町で活動する工兵隊(岡山県編『昭和九年九月風水害被害状況』掲載写真)と柳川筋の浸水(小林健二編『岡山県風水害史』掲載写真)



（右）昭和9年の水害で福山市から届いた罹災救助品の貼り紙。この水害で山陽本線の旭川鉄橋が損壊しましたが、おもに岡山市以西の多くの自治体・団体から、ただちに鉄道などで食糧・寝具・衣類・医薬品等の大量の救援物資が続々と岡山駅へ届けられました。

